

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200117		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム東山しょうぶ苑		
所在地	福島県会津若松市千石町5-8		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kashima.jp/kashimasou/CSS/kashimagroup.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉ネットワーク		
所在地	福島県いわき市錦町竹の花20番地		
訪問調査日	平成22年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『住み慣れた地域で楽しく生き生きと過ごせること』をモットーに、入居後もできるだけ生活環境が変わらずに、また、地域の行事の情報収集に努め、出来る限り参加しながら、毎日が楽しく安心して暮らせるよう支援しています。利用者への得意とすることを一緒にこなうことで、共に生活しているという関係作りをしています。家族の方々には、誕生会や苑での行事の参加を呼びかけ、利用者との楽しい時間を過ごして頂けるよう工夫しています。職員においては、ひとり一人それぞれの役割、専門性、持ち味を活かしながら、各自責任を持ち、お互いを認め、力を合わせてチームケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物が広々としており、開放的で、入所者の動線は、自然でゆったりとして、そこに流れる雰囲気は実に穏やかである。居室で利用者と共に生活できるスペースや、家族用の部屋が用意されている。管理者を中心に、理念やグループホームのあるべき姿に向かって団結しており、静かで穏やかな中にも強い意志が感じられる。職員一人ひとりが自立支援等を十分に理解し自覚している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で生き生きと暮らしていけるように理念をつくり、又、日々理念に基づいたサービスを提供できるように努めている。	開設時に職員全員で理念作りをし、共有していることで、職員一人一人が常に心に受け止めて利用者に接している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	町内会に加入させていただき、地域のイベントや情報収集に努め参加している。又、ホームの行事の際には、近所の方にも声掛け、お誘いしている。	町内会に加入し、一般の家庭と同じように関わっている(回覧板等)。地域の行事等に参加したり、ホームの行事にも声かけや、お誘いをして徐々に交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は活かすことができなかったが、来年度に、地域包括支援センターの方と共に家族や地域の方に向けて、認知症サポーター養成講座を開催する予定である。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに開催し、委員の方々にホームでの取り組みを報告、委員の方から実際に出された提案要項も実現できた。又、委員の方以外の家族の方にも出席して頂き、意見交換会も実施し、率直な意見をいただけるよう取り組んだ。	家族・民生員・区長等の参加を得て、2ヶ月毎に意見交換会を実施しており、成果も得ている。地域高齢者の方に対して、交流場所(サロン)として検討中である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の実地指導があり、事業所の実情やケアサービスの取組みを報告した。	三ヶ月に1回、東山地区地域包括ケア会議に出席して、事業所の実情やケアサービスの取組みを報告している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ホールにセンサーを設置し、職員が入りに気付くようにし、日中は鍵をかけないケアを徹底している。又、身体拘束に関する研修に参加し、禁止となる行動等を学び、支援する動作、言葉等に気を配りながら、拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を作成して実践し、全職員の意識レベルの向上に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修や勉強会に参加し、学ぶ機会を設けている。虐待防止を念頭に置き、双方を確認しながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ、必要性のある利用者がいなかった為、活用していないが、事務所内に後見人制度等についての文書を掲示し、少しでも理解できるよう取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分に説明をし、理解、納得していただいた上で、契約を結んでいる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については、各利用者に担当職員を配置し、利用者の気持ちを引き出すよう心がけ、不安や悩みは、居室でゆっくり話を伺うようにしている。家族については、面会時、話しやすい雰囲気づくりに心がけている。	特別に時間を設けるのではなく、日々の関わりの中で意見や要望を聞きだし反映している。家族面会時には、意見や要望を話しやすい雰囲気作りを心がけている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	月1回は、職員会議を開催し、全員で話し合える機会を設けている。又、日々のミーティングで職員の気づき等話し合い、運営やケアサービスに反映している。	月1回、職員会議を開催し、全員で話し合い、又日々のミーティングで職員の気づき等を話し合い、運営やケアサービスに反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(理事長)は、出来る限り現場に出向いき、職員や利用者とのコミュニケーションに努めている。その中で代表者自ら法人運営に参画し、職員の働く意欲向上や質の確保を図っている。介護職員処遇交付金を処遇改善手当として支給している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人の研修にはもちろん、外部研修にも参加し、職員の質の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人とのグループホームの管理者会議を開催場所を変えながら毎月開催し、管理者同士の情報交換をしている。又、2ヶ月に1回研修会を開催し、職員同士の交流や意見交換できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、及び介護支援専門員から入居前の状況、状態を伺い、ケアサービス内容に反映できるようにしている。又、本人の表情、動作に常に目を配り、耳を傾け、少しの変化に気付き対応できるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、契約時に、これまでの介護の経過や現在困っていること、不安なことを時間をかけて聴き、今後の援助に家族の思いが反映できるよう話し合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けた際に状況などを確認、早急な対応が必要な場合は、他の施設等を紹介している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から、調理や畑仕事等を教えてもらったり、毎日の家事全般において一緒に行うことが多い。お互いに得意とするところで協力しながら生活している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を共に支えていけるよう家族との連絡を密に取り合い、情報交換に努めている。又、家族の置かれている状況、健康、精神状態にも配慮しながら、面会や行事への参加の協力をお願いしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者に対してもホーム全員で歓迎し、いつでも来ていただけるよう声掛けしている。又、美容室等も希望により馴染みのお店の利用を家族の協力を得ながら支援している。	入所時、落ち着くまで家族が泊まれるスペースや、面会時でも家族とくつろげる部屋があり、又、家族以外の面会者をホーム全員で歓迎し、関係が途切れないように働きかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がそれぞれに関係を築いているが、その中で、常に職員が見守りしながら、話題の提供やレクへの参加の声掛けに努め、皆で楽しめる雰囲気作りに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居になった利用者のお見舞いに伺い、退院になった場合の相談を受け、入所申し込み済みの施設へ状況報告をしたり、同法人の施設に入所になった方に対しては、その都度面会に伺っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	本人表情や動作に気を配り、耳を傾けている。又話しやすい環境づくりにも努めている。本人からの把握が困難な場合は、家族からの情報も参考にしている。職員間でも気づきの視点から意見を出し合い、日頃から話し合いの場を設けている。	各人の表情や行動に気を配り、耳を傾け、把握が困難な場合は家族からの情報も参考にし家族と共に検討している。又職員間でも気づきの視点から意見を出し合い、話し合っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査時はもとより入居されてからも、本人や家族から必要に応じて情報収集している。又、日々の日常会話の中から見えてくるものもある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズム、行動、心理面を理解し、できることを見つけるよう努めている。又、各職員で気付いたことは、その都度話し合い、全員で共有するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、又はモニタリングにて、利用者、家族からの要望等を伺う。それに基づいて全職員で利用者の気持ちをいかに反映させ、より良いケアの提供に努められるか意見交換している。その結果を、介護計画に活かしている。	毎日、利用者の変化や状況等を確認し、より良いケアの提供に向けての意見交換をし、その結果を計画に反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やチェック表、申し送りノート等で情報を共有している。職員会議やミーティングで行うモニタリングで、ケアの改善、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族都合により、急に受診や用事等の付き添いが出来ない場合は、職員が対応したり、体調の変化時には、本人、家族と共に職員付き添いで受診し、医師への情報提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、イベントに参加し、ボランティアの訪問などでも交流を深め、楽しく、生きがいのある生活を支援している。又、公民館に利用者の絵や習字を展示してもらい、地域参加の喜びを感じてもらおう取り組んだ。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じたかかりつけ医となっている。家族が同行したり、職員同行したりしているが、どちらの場合も受診結果を共有している。又状態変化時には、必ず職員同行し、適切な医療を受けられるよう支援し、連携を図っている。	入所前からのかかりつけ医が主体となっており、受診時は家族又は職員が同行、受診結果を共有し、いかなる場合でも適切な医療が受けられるよう主治医との連携を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護では、情報交換しながら適切なケアが行えるよう指示を受けている。又、体調に変化があった際には、24時間電話で看護師に相談できる体制をとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を提供し伝達している。職員が病院に出向き回復状況の把握や家族と連絡を取り合い、状態把握に努めている。又、退院時に向けての院内カンファレンスを必要に応じて訪問看護師も出席の上、行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制及び重度化・看取りに関する指針を定めている。契約時に、看取りについてや重度化についての対応を説明し、その都度相談、検討が必要になってくることが説明している。又、状態の変化により、家族に報告、意向を確認しながら相談している。	現在まで対象者がいなかった為、看取りを行っていないが、医療連携体制及重度化・看取りに関する指針を定めており、家族の意向を確認し、その都度相談しながら対応を考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を受けている。事故発生時のマニュアルも目に付くところに掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一回防災訓練を実施している。防災グッズも準備している。地域との協力体制については、道路を挟んだ両隣が違う区域の為に、町内会を通して築いていく予定。	毎月第4月曜日にその都度時間を設定し防災訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーの尊重と守秘義務の遵守に努め、広報等の写真掲載についても事前に家族に許可を得ている方のみとなっている。又、馴れ合いとならないよう気を配りながら声掛けに努めている。	利用者のプライバシーの尊重と守秘の守秘義務の厳守に努めている。広報の写真掲載等は事前に家族の許可を得ている。又、馴れ合いとならないよう気を配りながら声掛けに努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が望むこと等はもちろん、言葉以外の訴えにも注意して観察し、本人の思いに寄り添いながら、自己決定できるよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション参加、調理、散歩、入浴等、声掛け確認し、本人の希望やペースに合わせて支援できるよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容が必要と思ったときは、家族に連絡した上で、なじみの店を利用して頂いたり、希望があれば訪問美容の利用支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	調理は衛生面に留意しながら、出来る方と昔のことを思い出しながら行っている。又、小さな作業でも、できることをやって頂けるよう心がけている。食事は、利用者も職員も同じ食事を同じ時間に摂り、共に味わいながら楽しんでいる。	献立は一週間前に考案し、前日に食材買出しする等、常に新鮮さとバラエティーに富んだメニューを心がけ、職員といっしょに楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事、水分摂取量をチェック、表に記入している。変化があれば、声掛けし体調確認している。次の食事等の参考にして支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合った支援を行っている。磨き粉を付けて渡す等の介助、義歯預かり洗浄、保管の支援等。自立されている方においては、声掛けのみで、確認までは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのトイレに行くペースに合わせて、排泄の声掛け、必要に応じて排泄介助、清拭等を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを掴み、声かけや必要に応じて排泄介助を行ない、必要な方には、1日に1～2回程度清拭し、皮膚の清潔に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取制限がある方を除いて、十分な水分量の摂取を促している。入浴後は、牛乳等を飲用して頂き、食事では、野菜や果物を取り入れて工夫している。運動面では、一日一回のラジオ体操等で身体を動かし、便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるよう準備している。利用者の希望やタイミング、体調に合わせて、菖蒲湯なども実施し、楽しんで頂けるよう支援している。又、夕食後の入浴も行っている。	毎日入浴できるように準備しており、時間帯は特別に設定せず、夕食後の入浴も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて休息して頂いている。その中で、規則正しい生活が送れるよう日中の活動の声掛けに努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態の変化があった場合や薬の変更があった場合は特に注意して観察している。必要時には医師に報告している。又、薬の処方を確認し、疑問があれば薬局、医師に確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や掃除、洗濯物干し、畑仕事等々のできることで、得意とすることを活かした役割を持って頂き、終了時には必ず感謝の気持ちを伝えていく。習字を得意とする方には、食事のメニューを書いて頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って対応したり、職員からの働きかけで、散歩、外食、行事、ドライブなど、積極的に外に出る機会を設けている。又、季節ごとに花見、あやめ祭り、法人の夏祭り、紅葉ツアー等企画し、出掛けている。	希望により随時対応しており、時折、近所のレストラン等で外食をしたりして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金は所有して頂いてなく、職員管理としている。その中で買い物希望時は、職員が同行して、又は職員が希望の物を購入する支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より承諾を得た上で、希望時には電話をかけるお手伝いをしている。又、手紙等を出す際には、近所のポストまで職員が同行している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、花を生けたり、鉢植えを置いている。又、常に中庭が見えるように障子戸を開け、日差しや天候を感じてもらおうようにしている。お雛様や団子さし等の飾りつけも行ない、季節を感じられるよう工夫している。	会津という城下町をイメージし、地域周辺にマッチした作りとなっており、ホールには対面式のカウンターや座敷・掘り炬燵があり、利用者が自由にくつろげるように工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはこたつ、ホールにはソファスペース、台所にはカウンターを設置し、自由に使用できるようになっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	入居の際、又は入居後も自宅で使い慣れていた物、馴染みのある物を置いていただけるよう声掛けしている。又、置いていただけている。家族の写真等を貼り、安心した空間作りにも努めている。	自宅で使いなれた馴染みの物を持参していただけており、居室には家族の写真等を貼り、安心した空間作りに努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、各所に手すりを設置し、安全に移動できるようにしている。トイレの目印、居室を間違えやすい方のドアには名前を貼ったり、職員と一緒に作った折り紙を貼ったりと、分かりやすいように工夫している。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム東山しょうぶ苑

記入担当者名 鎌倉 君子

評価結果に対する事業所の意見

この度は、遠方からありがとうございました。
結果につきましては、先日、訂正していただきましたので、特にありません。

今後共、よろしくお願い致します。

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	消防署立会いの下での防災訓練を、これまでに実施していない。	今年度初めごろに、消防署へ依頼し、実施していく。	消防署へ連絡し、日程を調整、依頼文書を作成し提出する。	3ヶ月
2	13	災害時の地域との協力体制が築けていない。	近隣の方々に、災害時の協力を得られるよう体制を整える。	近隣の方々に苑の内部を見学して頂き、避難口、避難場所等を確認し、災害時の誘導等、協力して頂けるよう声かけしていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。